

	<p>理工学部環境創造工学科</p>
DP	<p>環境創造工学科は、新しい学問分野として以下の5つの柱からなる「環境創造工学」を掲げ、これらの柱を基本とした教育を行います。</p> <p>(1) 環境に配慮した生活態度と環境問題を発生させない心構えを醸成させる。(環境の心) (2) エネルギー・資源の有効利用に取り組む。(エネルギー・資源問題の解決) (3) 良好な環境の保全と悪化した環境の復元・改善に取り組む。(環境の保全と復元・改善) (4) 自然との調和を図る。(自然との共生) (5) 新しい環境システムを創出する。(環境創造)</p> <p>次の資質・能力を身につけた学生に学士(工学)の学位を授与します。</p> <p>① 多様な価値観を形成するため、幅広い教養を身につけ、広い視野に立って物事の公正な判断をすることができる。</p> <p>② 環境の改善と新たな環境の創出のための問題の解決にその知識・能力を活用できる。</p> <p>③ 技術革新や社会状況の変化に対応できるように、主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、ともに成長することができる。</p>
CP	<p>環境創造工学科の教育目標は、以下の5つを達成することとします。</p> <p>(1) 多様な価値観と基礎知識 (2) 技術者倫理と環境倫理 (3) 専門基礎知識とその応用 (4) コミュニケーション能力 (5) 高度な技術者への基礎作り</p> <p>学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、次のような教育課程を編成し、実施します。</p> <p>① 教養教育は、人文・社会・自然科学、語学、情報技術、体育等からなる課程を体系的に編成し、様々な価値観に触れ、物事を正しく理解し表現できるようにする。</p> <p>② 専門教育では、環境創造に係わる課程を体系的に編成し、講義・演習・実験・実習等を適切に組み合わせた授業を実施することにより、専門分野の知識・能力を確実に修得し、問題解決のために活かすことができるようにする。</p> <p>③ 環境創造に係わる初年次教育や演習・実験・実習科目を中心にアクティブ・ラーニングの要素を取り入れることにより、生涯にわたって主体的に学び、他者との相互理解や意見交換ができるようにする。</p> <p>④ シラバスに示した内容に基づいて厳格に成績評価して単位認定する。学生個別の成績表にもそれを記載して学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。成績や学修態度を総合的に判断して個別指導できる教育支援システムを整備し、学生が各自の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。</p>
AP	<p>環境創造工学科は、高等学校等における学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。</p> <p>① 大学での学修の基礎となる高等学校における各教科の基本事項を修得している。</p> <p>② 環境のゼネラリストあるいはスペシャリストとして、学科での学修成果を社会で活かすという目的意識がある。</p> <p>③ 大学在学中だけでなく、大学院への進学や国家資格の取得等卒業後も学び続ける意欲がある。</p>
アセスメント・ポリシー	<p>学科レベルでは、ディプロマポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。</p> <p>科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。</p> <p>卒業研究については、学科が定める評価基準に基づいて卒業論文等の成果を評価し、学科レベルでは、その集計値で評価する。</p>